

# Eureka IX

六年制通信 No.16 令和3年9月10日(金)号

## 毎日1時間

中島みゆきの「時代」、何だかコロナ禍を予言していたかのような歌ですが、これがヒットしたのが私が中3の時。みゆきさん、まだ20代前半で、可愛かったなあ。ファンも多かったですよ。昔は今のトーク番組のようなものはないので、自分の頭の中で勝手におしとやかな中島みゆき像を作っておったわけですね。愚かな男子たちは。それがね、確か月曜日の深夜番組(ラジオね、オールナイトニッポン)を担当するというので、みんなで夜更かしして聴いたら「ぎゃははは〜」という笑い声がね、次の日みんな大変でしたよ。中島みゆき偽者説なんて出ましたからね。あんな下品な笑い方するわけないと。あのみゆきさんがするわけないと…。男はアホやね。

その頃から夜型になって、徹夜もしばしばするようになりましたが、勉強も読書もはかどらなかつた気がします。夜遅くまで起きて、朝は起きなければいけないのですからどうしても無理があるのですね。真夜中の静けさと早朝の静謐と、同じ1時間ならどちらが貴重なのでしょうか。一度自分で試してごらん下さい。私は、もちろん朝です。朝型になったのは、みんなには歳をとったからとか言っていますが、本当はある話を読んだからです。

ある薬品会社に勤務していたサラリーマンが毎朝5時頃に出勤し、他の社員が出社する前の2,3時間を自分の勉強に当てて、やがて小説を書いたというのですね。のちに有名な小説家となった人ですが、残念ながら名前を忘れてしまいました。非常に印象に残った話です。5時に出勤するとなると当然4時台に家を出るのですが、その時間だとさすがに電車も混まないの、会社までは座って勉強ができたそうです。こういう勉強を半年も続ければその蓄積は大きいでしょう。だいたい早朝に一仕事(一勉強)できるというのは素晴らしいことで、その日一日を心穏やかに過ごせるでしょうし、長く続ければ人の何倍もの仕事ができるでしょう。毎朝これを勉強する、あるいはこの本を読むという計画は、継続すれば驚くべき力を発揮します。

テレビのせいで(昔はラジオですね)夜型の生徒が増えたのはもう何十年も前のことですが、昔の人の話を読むと、やはり朝型の勉強家が非常に多い気がします。偉人伝の中には夜明けとともに机に向かっている例がたくさんあります。朝飯前の一仕事という言葉がありますが、彼らは文字通り朝食の前に仕事をしたり勉強したりしているわけです。昔は本当にあちこちで見られた光景なのでしょう。もちろんテレビなど電波による娯楽のない時代は、親が早起きだから子どもも早起きになるのでしょうし、早く起きて勉強していないと家の仕事を手伝わされるのだから、朝早く勉強する姿

が珍しくなくても当然といえば当然かもしれません。

早朝には現代で最も失われている静謐があります。大げさかもしれませんが、一日のうちで宝物のような時間帯です。これを活用しないのは実にもったいないように思います。しかしながら、今日から朝型になるぞといってもなかなか難しいかもしれません。朝の静かな時間は勉強には最適ですが（特に語学には最適だといわれています）、わかっているにもかかわらず早起きの難しい時代になりました。君たちにとってはテレビなど音の出る機器を自分の生活から排除していくのと同じくらいに難しいことでしょう。そして、計画を立てるところまではできても、少しの躓きがすべてを壊していくといった経験は、君たちもすでによく知っているところでしょう。一度立てた計画を絶対に崩さないという姿勢は大切ですが、それに縛られて、うまくいかない度に「ダメな自分」を確認しているようなら、スパッと計画を断念することも大切です。そこはよく理解した上で、計画に対する一番初めの躓きを見逃さないようにしなくてははいけません。私たちはそういう時、必ず「できない理由」を考えているはずです。人間の弱さだね。

朝型か夜型か、やはり君たちには朝型の方が合っているはずです。健康にもいいし、生活が安定するでしょうから。朝の2時間といわず1時間くらいは時間が取れないか、一度自分の生活を検証してみてもどうでしょうか。もちろん継続しないと意味のないことですから、実践するとなると大変ですが、これが習慣になれば、習慣になるまで頑張れば、相当な学力の向上が見られると思います。いや、本当のことを言うと、朝の1時間は徒然草のような古典を読むとか、そういうことに使ってほしいと思っているのです。あるいは、今年は一人の作家の全作品を読んでみようとか、できればそういうことに朝の1時間を使えないだろうか。一度考えてみてください。

#### 今週のおすすめ

・瀬川晶司 『泣き虫しょったんの奇跡』（講談社文庫）

藤井聡太二冠の活躍で、「観る将」が増えているようです。将棋に詳しくなくても対局を観て楽しむ人たちのことですね。私もその一人です。藤井二冠は19歳。彼の佇まいと発言には毎回感心します。あの若さであれだけの活躍をし、メディアで取り上げられたりすると普通なら調子に乗った言動があると思います。実際そういう若者を目にしますよね。しかし藤井さんは大した人ですね、そんな素振りは微塵も感じません。あの精神力は並大抵ではないと思います。一度、親御さんに会ってみたいわ。

さて、この本は年齢制限の壁に阻まれ将棋のプロになれなかった男が、プロ棋士への編入試験の実施を勝ち取り、合格し、プロ棋士になるまでの物語です。瀬川さん、文章上手なんですね。将棋を知らない人も一気に読めます。そして、こういう青春もあるのだということを君たちにも知ってほしいですね。是非読んで下さい。

ちなみに、これ映画になっていまして、主演が松田龍平さん。ほら、以前私が絶賛した『舟を編む』で主演した人です。映像もよくできていましたよ。実際のプロ棋士があちこちにちょこっと登場していて、将棋ファンを喜ばせています。

BGMは 井上陽水&安全地帯 の 夏の終わりのハーモニー でした…。